

# 広袴便り

会 号  
内 報 第 14 号  
会 報

発行日  
平成 20 年 5 月 25 日

発行責任者  
会 内 三 郎  
町 孝 三  
上 杉 孝 郎



## 町内会運営二年目を

### 迎えるに当たって

# 新

人集団でスタートした町会運営がどうかですが、これはひとえに吉川相談役を始め多くの皆様から頂きました暖かいご指導ご支援のおかげと委員一同心から感謝申し上げます。有り難うございました。

二年目を迎えるにあたり、初年度の反省点を踏まえて平成二十年度事業計画案を定期総会資料にまとめさせて頂きましたので、お目通しいただければ幸いです。

事業計画を大別いたしますと「広袴町内会を中心とした活動」と「地域社会との連携」の二つに分けられたかと思われまますので別々にお話させていただきます。

1. 「広袴町内会を中心とした活動」  
年間の行事を通してよくご理解を戴いているこ

とと思しますので活動内容は省略させていただきますが、今年の重点テーマとして火災報知機設置率の向上推進、大規模災害を想定した基礎的な調査をスタートいたします。総会に向けて取り扱いが容易で安全性の高い組み立て式盆踊りやぐらの購入提案と、町内会運営の継続性を図るため半数委員の選出時期を一年ずらす規約改正提案を予定しております。

## 2. 「地域社会との連携」

・町田市青少年健全育成鶴川第二地区委員会（鶴二小／三輪小学区）と第三地区委員会（鶴三小／鶴四小学区）共に大きなイベントとして夏の映画会、秋の親子レクリエーション、年明けの親子マラソン大会がありイベントあたり六百名を超える参加者があり学校の先生方も校長先生をはじめ大勢参加されます。広袴の子どもたちもたくさん参加しますので今年は町内会としてより積極的に参加してまいります。

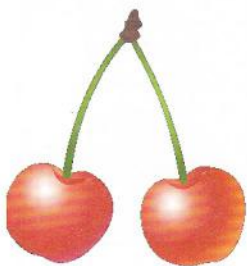
・学校関係は（鶴二小・鶴三小）、（鶴二中・真光寺中）が主です。広袴の子どもたちが通うこれらの

学校との関係強化はとても大切な事柄であり卒業式、入学式、運動会、文化祭、コーラスコンクール等、町内会として進んで関わってまいります。

以上紙面の都合上説明不足のところが多々あることと思いますがご容赦いただくと共に新年度も会員の皆様のご理解とご支援・ご協力が戴けますよう宜しくお願い申し上げます。

最後に平成十九年度一年間ご協力いただきました班長の皆さんに厚く感謝申し上げますと共に任期後も諸事ご協力ご支援くださいますようお願いいたします。

【町内会会長 上杉 孝三郎】



# 平成二十年度定期総会開催

四

月二十日日曜日 広袴会館にて平成二十年度  
広袴町内会定期総会が開催されました。

総会資料は各戸に配布されておりますので、是非  
ご一読いただくようお願いいたします。

【広報部】



多くの皆様にご出席いただき、活発な討議が行われました。

## 平成20年度 主な町内会行事予定

- ・クリーンアップデイ 7月
- ・防災訓練 7月下旬の日曜日
- ・盆踊り大会 8月2日(土)
- ・秋祭り 9月初旬の日曜日
- ・市民運動会 9月28日(日)
- ・作品展示会 11月3～4日
- ・クリーンアップデイ 11月
- ・歳末警戒町内パトロール 12月30日、31日
- ・賽の神(どんど焼き) 1月14日(水)



上杉会長のご挨拶

## 平成20年度 広袴町内会各部会組織図

相談役 吉川 俊雄	会長 上杉 孝三郎	副会長 久保田 啓臣	副会長 夏目 義久
会館運営委副委員長・顧問 小林 豊 森本 亮平	総務 永野 貴太郎 吉川 喜章 神谷 伸一 戸田 靖知	書記 高桑 正行 尾根田 政寿	会計 大嶋 孝之 関口 正和
広報部 金子 欣三 井上 好信 2-B 榎並 利晃 2-D 瀬口 賢一 4-B 吉田 雅一 9-A 黒田 和典 11-C 小田原和明 13-B 杉島 健次 14-B 齊藤 守 15-B 岡田 光司 15-C 坂入 清之 16-B 甲斐 敬二	文化部 本郷 和朗 田辺 晋一 2-C 吉川 毅 4-C 荒井 裕介 5-B 北山 新一 6-A 宮内 和明 10-A 中田 辰英 11-B 吉川 和男 12-A 紺屋 富夫 12-D 堀 貴文 13-C 吉田 喜芳 14-C 駒峰 寛人 16-C 福永 清貴	防災・防犯・交通部 渡邊 元雄 石塚 勝夫 3-B 吉川 宏 4-A 大塚 靖夫 7-A 武宮 泰久 8-A 嶋津 玲司 9-C 吉川 弘也 11-A 吉田 幸保 12-B 黒岩 賢司 12-C 櫻井 邦夫 13-A 山際 哲明 15-A 伊藤 義次 16-A 田口 博	環境・衛生部 菊池 誠一 高橋 憲明 1-A 濃野 覚 1-B 阿部 隆行 2-A 吉川 忠作 3-A 白井 敏夫 3-C 久恒 礼子 5-A 入江慎一郎 9-B 高野 誠 10-B 木村 香次 10-C 水野 義久 14-A 増原 達人 15-D 新堀 進悟

# 広袴子ども会

## 昨

年四月、ピカピカの一年生を迎え約一八〇名の児童と共に賑やかに一年がスタートしました。七、八年前には想像もしなかった多人数となった広袴子ども会。これは広袴の変わり行く姿にも垣間見ることができのではないかと思います。今、子ども達に必要なのはどんな事？ 次の世代に伝えていって欲しい事はなんだろう？ そんなことを思いながら、あつという間に一年が過ぎました。

四季折々の伝統行事やお楽しみ会、夏休みのラジオ体操など様々な活動を通して新しい発見があり、喜びや感動を肌で感じることができました。夏の納涼盆踊り大会では、日頃ご協力いただいている町内会の皆様へ感謝の気持ちを伝えたいと思い、心ばかりのプレゼントを用意しました。当日引き換えに来てくださった方に、「子ども会、頑張ってるね。」と、

声を掛けていただいた時は、本当に嬉しく思いました。また、こちらの突然の御願いにも関わらず快く子ども達に太鼓を指導し、本番まで温かく見守ってください、感謝の気持ちでいっぱいです。

夏休みも終わりに近づいた頃、ひなた村で、



ディキャンプを行いました。高学年の男の子が一生懸命に節を割り貫いた竹を使つての流しそうめんは大盛況で、忘れられない味になりました。また、秋には大道芸人を招いて笑いあり、感動ありの楽しい一時を過ごしました。

この様な子ども会の活動と広袴の伝統行事が子ども達一人一人の心に残る想い出となつてくれることを願いつつ、明るい元気な声が響き渡る地域であり続ける様に、より良い活動を目指したいと思っております。

最後になりましたが、子ども会の活動にご尽力くださった上杉会長をはじめ町内会役員の皆様、そして沢山のご協力をいただいた町内会の皆様にご心よりお礼申し上げます。

【平成一九年度 広袴子ども会会長 森 圭子】



## 広袴の庚申塔

# 広

袴の神明社入口左に、大小二つの石塔がある。小さい方は文字がほとんど読み取れないので、何の碑か分からないが、大きい笠付き石塔は、庚申供養塔と書かれている。破損で読み取れないところは□で表すと、右の側面には「右神奈川道」「安永六丁□年十一月吉日」と、彫られている。安永六年は西暦1777年だから、丁の後ろの□に入る文



字は、酉すなわち丁酉（ひのととり）の年だと分かる。

また左の側面には、「武□多摩□廣袴□」、二行目は「左江戸道 講中拾六人」と読み取れる。□部を推察すれば「武州多摩郡廣袴村」ではなからうか。また、講中拾六人とあるところから、当時の村の規模が推察できる。（当時の村の戸数、全体で二十三

戸）

石材は角礫岩で、丹沢山塊の地質である。大山の麓、七沢とか日向には古くから多くの石屋があつて、江戸の需要を賄っていたそうだから、この庚申塔もその辺りで生産されたものだろう。

庚申（かのえさる）は、『甲（きのえ）乙（きのと）丙（ひのえ）丁（ひのと）戊（つちのえ）己（つちのと）庚（かのえ）辛（かのと）壬（みずのえ）癸（みずのと）』の十干と、『子（ね）丑（うし）寅（とら）卯（う）辰（たつ）巳（み）午（うま）未（ひつじ）申（さる）酉（とり）戌（いぬ）亥（い）』の十二支の組み合わせ（干支・・・「えと」と言う）の一つである。10と12の組み合わせだから60通りで一巡する。これを年、月、日などにあてて用いた。2008年は干支でいうと、戊子（つちのえね）の年である。ちなみに還暦は、この組み合わせが60年で一巡することからきていることは、ご存



じのとおりである。

庚申信仰の由来は、「庚申」の夜が怖いからだ。それは、人間の体内にいる三戸（さんし）という三匹の虫が、寝ている間に体を抜け出して天に昇り、その人の善悪を天帝に告げ、天帝はその罪の大小によつて罰を加え、ときには死に至る。人々はそれら避けるため、庚申の夜は無病息災を願いながら眠らないで過ごし、三戸虫を天帝のところへ行かせないようにするという貴族の風習が、次第に民衆にも広まり、江戸時代に最も盛んになった。（夜通し喋り合い、飲みあいながら日の出を待った。そのため農村では、飲み会のことを「日待ち」と言うようになる。）こうして各地に庚申を祀る集団「庚申講」が結成された。庚申の日は年に六回ほどあるが、三年間18回続いたときに、熱心な信者や講の人々によつて供養をして、「庚申塔」が造立されることが多く、それで庚申供養塔とも呼ばれる。

「庚申塔」は、道の分岐点、あるいは集落の入り口や田畑を見下ろす小高い台地などに、五穀豊穡、無病息災、悪疫退散を願つて祀られた。庚申塔の石形や彫られる神像、文字などはさまざまである。字の読めない人が多かった時代、干支を動物で表したが、申は猿とした。そこから「見ざる、言わざる、聞かざる」のいわゆる三猿の彫り物が付くのが特徴だ。ここの庚申供養塔は欠損が甚だしく、三猿の形がはつきりしない。台座の正面のサルは右手で耳を押さえ左手を伸ばしている。右側面の猿は左手で口を押さえ右手を正面の猿に伸ばしている。左側面の



猿は右手で目を押さえ左手をやはり正面の方へ伸ばしているように見えるその他にも何か彫られているようだが不明だ。

庚申塔には、神道の猿田彦神が彫られたものもある。猿田彦神は道中の安全を祈る神であることから、庚申信仰は道祖神信仰とも結びついた。さらに仏教では、庚申の本尊は青（シヨウ）面金剛とされるため、青面金剛が彫られたものもある。

広袴にも青面金剛像がある。神明社への参道を登っていくと神社の拝殿にでるが、その裏に八つほどの石祠とともにその像が立っている。青面金剛は、その六臂三眼の憤怒相から病魔、悪鬼を払い除く威力があると信じられたようだ。青面金剛の左右には棒を持った童子が、台座には三猿がはつきりと彫られ、庚申塔としての青面金剛の特徴をそなえている。

石像は全体に苔むして刻まれた字は読めないところが多い。かうじて延宝七年、廣袴、拾一人などの字が判読で

きる。延宝七年は1679年（己申）だから、前出の庚申供養塔より100年ほど古く、今から約330年も昔のものである。□□拾一人は講中の人数か、これも安永六年より五人ほど少なく当時の村の規模が推定できる。

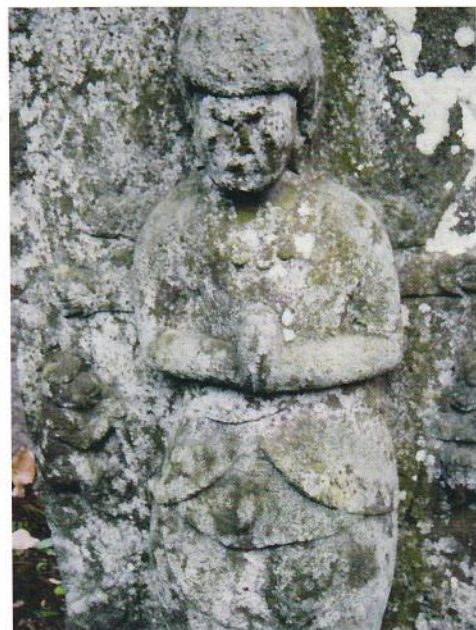
庚申塔の持つ機能の特色は道標をかねるものが多いことだ。先ほどの笠付き庚申供養塔も、江戸道と神奈川道の道標になっている。そうすると現在の建立位置は道標として合わなくなる。古くから住んでいる人に聞くと、元は鎌倉早の道と亀井坂（江戸



道)の分岐点にあったようだ。境内の青面金剛像も、元は真光寺村との境、鎌倉早の道（鶴川街道）と栗木に抜ける道の分岐点にあったものらしい。

石祠の一番大きいには、「天王社、牛頭天王」と書かれた木札が入っている。もと、天王山の頂上に祀られていたものだろう。牛頭天王は疫病を除く神として、村人の信仰が厚かったようだ。他の石祠は村内のあちこちにあったものだ。上集落の熊野社・天神社・山王社・第六天社の四社のほか、神明

社・金山社・天王社の祠が、戦後神明社に合祀され、この場所に移されたものだろう。いずれも貴重な文化財だから大切にしたいものだ。【七組 広瀬俊雄】



# 作品展示会への作品について

## 昨

年文化の日に、私が出品した水彩画（北海道豊平川の雪景色）について、広報部からコメントを求められ、筆を執る次第です。

本来こうした風景画は、大自然を前にしてキャンパスに描く制作こそが美術絵の真髄と言われておりますが、この絵のように北海道の寒い自然を前にして描くなんて、私には当然出来得ることはありません。

実は何年前、北海道にいる知人の撮った写真がある会社のカレンダーの表紙に採用されたとの知らせとともに届いた、年賀ハガキに載っていた写真が、絵のモチーフとなり、構図の素晴らしさが絵に表現できたらと、絵筆を執ったというわけです。

この雪景色の絵については、随分昔になりますが、墨絵の指導を受けていた時の技法を思い出しながら描いたもので、水墨画の要素が多く含まれた作品になったと思います。【九組A班 小林 豊】

作品展示会におけるこの「豊平川の雪景色」に対する評判はとても大きくて、鑑賞者の口からは一様に讃嘆の声が上がったと思います。河岸における積雪の質感が、なるほど水墨画の技法が取り込まれていたのかと、いまさら納得する

次第です。これからも素敵な絵をご披露戴けたらと期待しております。【広報部】

## 町内会掲示板

広袴俳句同好会（広袴句会）

広袴俳句同好会は、毎月第三木曜日の午後二時から四時まで広袴会館で句会をおこなっています。

自然豊かな広袴は、身の回りに句材が一杯です。誰でも紙と鉛筆があれば直ぐに創れます。初心者歓迎、興味のある方は、開催日に直接会館へお越し下さい。

山鳩の野太き声や桐の花

青大将目と目が合ふて息止めし

末生の胡瓜の細き先を曲ぐ

老鶯の声透きとほる雨上がり

流さるる雛へ真つ直ぐ軽鳧の親

梅雨晴間ざるに並びし赤き梅

遮断機の上がるを待てる日傘かな

大楠のてつぺん暗し法師蟬

敷きたての藁の匂や花南瓜

代田搔く農夫煙草をくはへたり

【世話人 七組 広瀬】



（絵手紙 十一組C班 滝口博子様）



【広報部】

本号より同好会・サークル・イベントのお知らせなど、会員のみなさまにご利用いただけるコーナーを設けることにいたしました。掲載ご希望の方はお気軽に広報部あるいは班長さんまで。

# お知らせ

広袴中央バス停留所を利用されている通勤、通学の皆さんが、横断歩道でないところを横断している場合が多いようです。いつか事故が発生するのではないかと心配されます。自治会では、停留所と横断歩道の位置をもっと接近させるか、若しくは信号機を設置を町田市に請願しております。実現されるまではどうか横断歩道を利用して交通安全に心がけてください。



## 【広報部】

## 町内会総会での耳寄りのお話

1 大規模災害時の対応のためのプロジェクト。広袴における災害の歴史、そして地質状況等の、基礎調査を広袴町内会として進める予定だそうです。家族（特に高齢者、子供など）の避難の仕方、通信、食料の対策、水、ガス等の対策等を住民の協力の下に進めていく計画との事。安心・安全をもたらしてくれるこのプロジェクトには諸手を挙げて賛成だ。

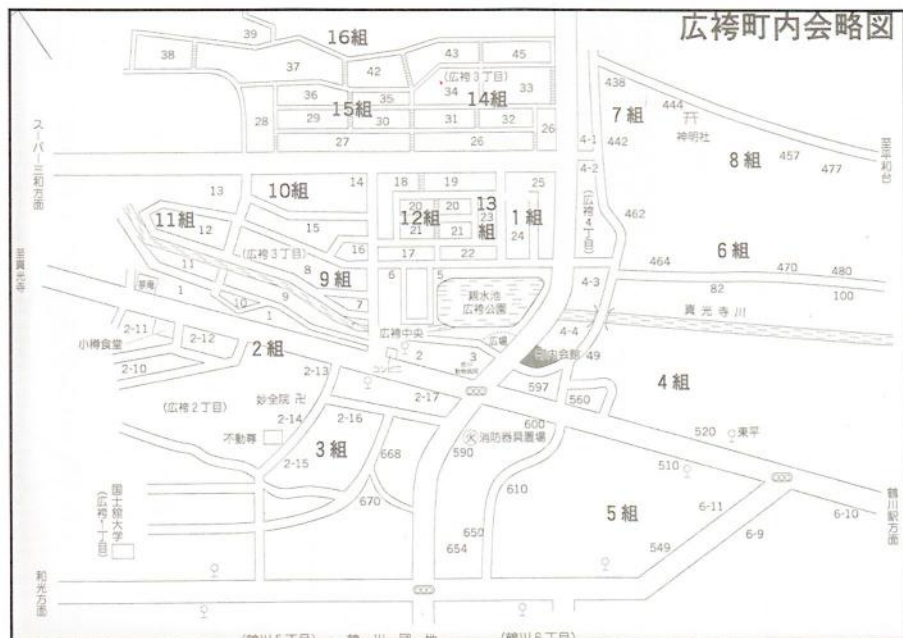
2 町田市のごみ減量化方法として、生ごみ処理機の販売を市で推進中。

町田市指定の処理機は、一定の人数（十名以上とのこと）が集まれば、かなりの値引きで購入できるとの事。処理されたものは、庭で堆肥として利用できる優れたものらしい。夏ごろまでに市の広報、回覧版などでお知らせがあるので注意してご覧下さい。花々に囲まれたきれいな広袴の町を目指そう。

### 3 広袴産野菜の販売を計画。

野菜生産者と直結した地元の野菜を会館の駐車場などを利用して販売する計画がなされているらしい。地元ならではの新鮮なものが味わえるこの計画に万歳。

## 【広報部】



編集後記

今年度広報部に所属させていただき、思うように参加できなかったこともありすが、広報での仕事、広袴便りがどのようにして作られていくのかなど勉強させていただきました。そして心温かい町内の方々、広報部の方々の出会いに感謝しております。一年間ありがとうございました。

(安蔵)

この一年間「広袴だより」にかかわる事で、普段知らなかった編集作業の面白さや大変さとともに、広袴という土地の歴史の深さなどを知ることが出来ました。ありがとうございました。

(今井)

よく判らないまま広報に携り、沢山の方々と知り合え良い経験をさせて頂きました。これからの町内会の発展をお祈りします。

(大矢)

広袴に住んで八年。この一年間は一組の班長として、広袴便りを再度担当した。此処に住む方々の人数も増え、町の様子も変わってきたような気がする。広袴便りの編集を通じて新しい発見を経験した事は至福であった。優しい里山

に囲まれた美しい広袴の町の良さをこれからも皆で維持していきたいもの。広袴の自然の愛がいつまでも続く事を祈念しつつ、一年間のお役目を終了させて頂きます。有難うございました。

(佐々木)

広袴に住んで四年目の一年間十三班A組の班長をやらせていただきました。広報部のメンバーにさせていたいただきました。ほとんど見ているだけに近かったのですが皆様の編集の進め方を見ていろいろと勉強になりました。

(佐藤)

ワンちゃんの散歩にも色々あるようでそこで一句。この頃の少年ジェットリード持ち

(三丁目読み人知らず)

一年間「広袴便り」の発行に携わり、広袴の魅力ある今昔を知る事ができました。良い経験ができた事に感謝致します。

(土屋)

今回広報部に携わることになり、大してお役には立てませんが、町内会や広報誌がより身近なものとなりました。また町内会というのは多くの方の努力や苦勞によって支えられ、成り立っているんだということも改めて感じた

一年でした。一年間どうもありがとうございました。(長谷) 広報の仕事なにもわからずに一年過ぎました。これもみなさまのお助けと感謝して居ります。ありがとうございました。(松川)

恵まれた自然環境と美しい町並み、そして人と人の輪がつながる「広袴」がさらに住みよい町になりますよう。(吉川)

平成十九年度広報部の皆様、一年間本当に有難うございました。皆様の地道な努力により、また、寄稿者にも恵まれて、好評な四回の発行を全うすることができました。平成二十年度の広報部にも、なにかとお力添えをお願いいたしたく、よろしくお願いいたします。(井上)

「便り」は年間三回の定時発行という性格上、近時性・ニユーシ性を求めるのはなかなか困難なことですが、できるだけ追求してみたいと思います。前から云っていることですが、広袴という地域を幅広く知るよすがとなるような記事を載せ続けたいものです。(金子)



広報部長	金子欣三	安蔵由希代
副部長	井上好信	長谷美紀
編集人	佐々木幸子	谷口正
	今井昭哉	土屋知子
	松川泰重	吉川和秀
	佐藤裕幸	
	大矢喜昭	